

訪問教育学級

1 訪問教育学級

本学級は、障害等のために通学して教育を受けることが困難な児童生徒に対し、教員を自宅等に派遣して教育に当たるものである。個々の障害の状態に応じて、AⅡ（高等部）、B（小・中学部）、C・D課程（全学部）の教育課程により実施する。

(1) 授業時数等

ア 授業時数

- ・ 年間35週以上にわたり、1単位時間45分として、1回2単位時間、週3回の計6単位時間を標準とする。
- ・ スクーリングは、週4時間以内を基本とし、必要に応じて実施する。

イ 時間割については、個々の実態に応じて設定する。

時間割（例）

	月	火	水	木	金
午前	訪問		訪問	訪問	スクーリング
午後					

- ・ 学校行事等でスクーリングを組む場合は、それと振り替える。

ウ 学習の流れ（例）

過程	始まりの会	体づくりなど	課題学習など	終わりの会
学 習 活 動	・ 挨拶 ・ 呼名、健康観察 ・ 日付・天気調べ ・ 季節の歌	・ 各種体操など ・ マッサージなど ・ 外気浴など ・ 姿勢の保持・変換	・ 感覚遊び、運動遊び ・ 音楽、リズムなど ・ 制作、絵本、教科など (個々の実態に合わせて)	・ 後片付け ・ 振り返り ・ 帰りの歌 ・ 挨拶

* 子どもの実態に合わせて休憩時間をとる。

エ 授業の実施に当たって

- ・ 保護者からの情報収集やバイタルサインの確認などを行い、常に児童生徒の健康状態の把握に努める。体調などに合わせた内容の設定や、適切な環境作りを行う。
- ・ 児童生徒の身体の状態について把握し、安全面に十分注意しながら、随時適切な姿勢の保持、変換などを行う。児童生徒の実態に応じて座位保持椅子やクッションチェアなどの補助具を利用する。
- ・ 児童生徒の表情や動き、サインなどを細やかに観察し、的確に捉えるように努める。
- ・ 児童生徒との共感関係を大切にして、楽しさや充実感、達成感や自己有用感などを味わえるように努める。
- ・ 児童生徒の実態に則した内容の設定や題材の構成を行い、教材・教具の工夫に努める。
- ・ 発達年齢だけでなく生活年齢も考慮した関わりや学習活動に配慮し、年齢に応じた活動や文化に触れながら楽しむことができるようにする。
- ・ 保護者とのよりよい関係づくりに努め、教育目標や方針、指導内容などについて共通理解を図る。
- ・ 医療、福祉等の関係機関や地域社会との連携に努め、共通理解を図る。
- ・ 感染症予防、対策などの情報共有を行い、安心・安全な授業に努める。

